保育単

施

必要な感性を育んでい

大附事務局長

の改修だという。

「旧来のトイレは和式がメイン、内装も冷たい雰囲気のタイル貼りで、四半世紀が経って時代に合わなした事務局長の大附美徳さんは振り返った。

改修によって全体は明るい白基調となり、個室のドアや壁、洗面台などには木目調の化粧板を使用した、温かみのある空が大きくなり、ゆとりあるものとなった。荷物置きやフック類も充実しており、荷物が多い時にも使いやすい。便器は全て洋式で、小鳥のさえずりが流れ、暖房便座、温水気代も節約できています」とのこと。

改修でもうひとつ大きく変わったのが、パウダールームの設置だ。山村学園短大は共学だが男子学生は少ないため、思い受け入れが拡大すると考えられます。その際、赤ちゃんを連れた人でも安心できるような備えとして設置しました」とのことで、短大としての将来を見据えての改修といえ

札幌北斗高等学校

MYプラロッカー

北海道札幌市、札幌駅の近くにある札幌北斗学園、札幌北斗高等学校（明上山勝己理事長・校長）。昭和3年女性の自立を建学の精神に、札幌岡裁縫女学校として開校、昭和23年に学制改革で札幌北斗高等学校となり、平成11年に男女共学校に移行した。「質実真摯」を校訓とする。現在、新校舎を建て替え中だ。新校舎は、①伝統を形にする②社会の要求を実現する③生徒の生活を充実させる――をコンセプトにする。

新校舎建て替えに伴い施設・設備の充実も図っている。その一環として、

生徒は喜んで使用している『MYプラロッカー』

新校舎建設建て替えで導入

ゆとりを感じさせる空間を演出

新しくしたのがロッカーだ。従来のロッカーはスチール製で、さびやすく重かった。その上、色もグレーで地味だった。さらに「生徒が使うには小さすぎました。また、冬は雪が降るので融雪剤を撒きます。そのためにロッカーは新しくてもすぐ錆びてしまいます」（明上山校長）。

このような状況で導入したのが、『MYプラロッカー』（㈱LEC＝東京都足立区）だ。このロッカーは、入学時に購入し卒業までMYロッカーとして使用し、卒業時にはメモリアルBOXとして持ち帰ることができるというもの。

とりわけ学校の環境に適しているのは、①錆びない上に②軽いので、進級時等の移動時に安全に素早く運ぶことができること、③ロッカーの角が丸みを帯び素材が樹脂なので、ぶつかることがあっても大けがになることがほとんどないこと、④汚れたり破損したりしてもそのパーツだけ交換できるので、きれいなロッカーとして維持できること、⑤暗くなるとパーツ部分がホタルのように光る（「ホタロッカー」と名付けられているので、震災時避難する道標になることなどが挙げられる。

新校舎建設に当たって同校が導入する『MYプラロッカー』は、廊下に設置した。色は明るいブルー。

「前のロッカーは靴しか入れることができなかったので、貴重品なども入れたいという生徒の要望を取り入れ、Mサイズの大きさを採用しました。軽いので、重ねることもでき、連結して安定も得られる。色彩的にも明るく落ち着きがあり面積的にもゆとりを感じさせる空間を新校舎にもたらしてくれました。生徒はとても喜んでいます」と校長は話す。

もちろん同校は施設・設備の充実とともに、良好な学習環境の実現にも努めている。学習指導と進路指導とが系統的有機的に絡み合った人間力（＝生きる力）を育む同校独自の「きらぼしチャート」というシステムを導入。これは、コース・系列と3ヵ年通してのキャリアホームルームを縦軸に、4つの能力（相互関係リサーチ・福祉マインド・情報リテラシー、および進学）の獲得を目指し、進学演習と課題解決型の学習を組み込むシステムとのこと。また、ボランティア活動をはじめ地域や社会人、外国人などとの様々な交流に取り組んでいる。

「平成30年には創立90周年を迎えます。家族と社会を支えることに喜びを感じるような生活実感ある〝賢い〟生徒を育てていきたい」と校長は語る。

読書――教育現場におすすめします

ジグソー法ってなに？みんなが協同する授業
エリオット・アロンソン他著
昭和女子大学教育研究会訳

本書では、協同学習（cooperative learning）と「協調学習」（collaborative learning）で、「アクティブ・ラーニング」であり、主体的な学習活動を行うための方法」で、「アクティブ・

たった一つを変えるだけ
ダン・ロスステイン他著
吉田新一郎訳

し、幅広く創造的に考えられる「発散思考」、②答えや結論に向けて情報やアイディアを分析し

び合い、話し合い、討論し、必要な異なる種類の情報について考え、そし

問に耳を傾け、相互に学

安全なアスベスト処理 CAS工法

アスベスト無害化技術

2014年6月にアスベスト規制法案が大幅に改正されたが、天井裏や機械室、エレベーターシャフト、煙突など人目につかないような箇所では、物理的に除去が難しく、アスベストを処理したくてもできないのが現状だった。

アスベストを取り巻く環境が厳しくなる中、2012年4月に国の認証機関によってCAS工法というアスベスト無害化技術（建物技術審査証明1201号）が認証された。これにより、鉄道や空港、商業施設、病院などの施設の稼働を止めず

テレビ電話でモチベーションをサポート

城西大学駅伝部でモニター提供開始

エクセリーベ

テレビ電話によるメンタルケア、高齢者見守り

を出したいランナーの「理想の走りへの思い」